

# 高千穂の夜神楽

高千穂に伝承されております神楽は、天照大神が天岩戸にお隠れになった折に、岩戸の前で天鈿女命が調子面白く舞ったのが始まりとされておりまして、古来私共の先祖は、永い間、高千穂宮を中心に、この神楽を伝承して今日に及んでいます。

昭和53年に国の重要無形民俗文化財の指定を受け、昭和55年には、ヨーロッパで開催された「国際伝統芸術祭」に招待を受けるなど、全国各地で多くの公演を行っております。その伝承は遠く、神楽研究家の間では、平安末期から鎌倉時代にかけて成立したと言われております。

高千穂の夜神楽は、毎年11月中旬から翌年2月上旬にかけて町内各地区にて33番の神楽を夜を徹して奉納し、秋の実りに対する感謝と翌年の豊穰を祈願するものであります。また、当協会にて公開を行っております高千穂神楽では、昭和46年から40年間にわたり代表的な舞を一日もかかさず毎夜奉納していることから、平成23年には、「高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」という大変名誉ある賞を受賞しております。



いわくぐ まい

## ①岩潜りの舞

岩間を潜る激流を表す舞です。四人舞、三人舞、二人舞、一人舞と目まぐるしく変わり、太刀先をたすきに当てての「八方返り」など緊張感がみなぎった舞が披露されます。



たちからお まい

## ②手力雄の舞

天照大神が天岩戸にお隠れになった折、高天原で一番の力持ちの手力雄命が、天岩戸を探し出すために静かに音を聞いたり、考えたりする様子を表現した舞です。



うずめ まい

## ③鈿女の舞

天岩戸の所在がはっきりしたので、岩戸の前で、面白おかしく舞い、天照大神を岩屋より誘い出そうとする舞です。



とと まい

## ④戸取りの舞

天照大神が外の賑やかさを不思議に思い、岩戸を少し開け陰から覗こうとする時を見計らい手力雄命が渾身の力を込めて岩戸を持ち上げ、放り投げる力強い舞です。



ごんたい まい

## ⑤御神躰の舞

別名国生みの舞と言ひ、伊弉諾・伊弉冉の男女二神がザルを揺らして酒を作り、仲良く抱擁し合う舞で、家内円満や子孫繁栄、五穀豊穰祈願の舞です。